
嗚呼、素晴らしき我が守銭奴人生

逆意識改革

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嗚呼、素晴らしき我が守銭奴人生

【Nコード】

N5303S

【作者名】

逆意識改革

【あらすじ】

主人公は金に汚いゲス野郎。

とても人には言えない方法でせっせと金を貯め続ける毎日。だが、死んで全てが水の泡、死後の世界に財産は持ち越せないのだ。いやいや、それは普通の人間の場合の話なのだ。

持ち前の意地汚さと金への執着心で足掻きに足掻く。

そして、ついに引き出した条件は何と異世界トリップ？

他の世界に丸投げしちゃったよ。

さて、屑で最低な彼が一体異世界にどんな災厄を撒き散らすのか。

第1話：ああ最低じゃわい、だから何じゃ？

この世で一番価値のある物、そんな物は自分の命に決まっておるわい。

この世で一番下らなくて意味のない質問じゃ。

なら二番目は何か、多くの人間は金と答えるじゃろうな。

当然ワシもそうじゃ、金が大事に決まっとるわい。

確かに、この世には金で買えない物も沢山あるのう。

じゃが、金で買える物の数からすればそんな物は誤差程度でしかないわい。

時として、金が無ければ命さえ失いかねないんじゃからな。

要するに、幸せに生きたいなら金を集めるのが一番手っ取り早いというわけじゃ。

基本的には貧乏人より金持ちの方が幸せな人生を送っとるじゃろうが。

金を持っても友情や愛情は築けるし、金が無くても金銭問題は同じように起きるんじゃからのう。

こればかりは金より大事な物があるうがなろうが関係ないわい。金が有って困る事より、金が無くて困る事の方が遥かに多いんじゃ。そもそも、金よりも大事な物という表現自体が金の素晴らしさを物語っとるわい。

金より大事な物なんぞ殆ど無いからこそ、こうして価値観の基準にされるんじゃ。

金が友情や愛情より勝る点なんて幾らでもある。

目に見え、測る事が出来、勝手に減ったりなくなったりする事もなく、誰にとっても平等じゃ。

ありとあらゆる物に使える汎用性も金の魅力の一つじゃのう。

つまり、こんなに素敵なお金様を無駄に浪費するような奴は、そもそも幸せになる価値すら無いアホじゃという事だわい。

「や…山寺、貴様は教師を脅すつもりか!？」

で、そのアホがこいつじゃ。

唾をこっちに飛ばしながら何か言っとるわい。

こいつ本当にうつとおしいのう。

この期に及んでまだどうにか出来ると思っとるんじゃないのか。

教え子とやりたいばかりに10万近く払ったらしいわい。

金額は相場の軽く3倍以上じゃ、金銭感覚が壊滅的じゃの。

明らかにゴリラみたいな外見しとるし、それも仕方が無いがのう。

何で知ってるかというのと、頭の軽そうな女が教室内でベラベラと自慢しとってな、

それをネタにちよつとカマかけたらこのザマじゃわい。

底抜けのアホじゃ、よく教師になんぞなれたもんじゃ。

「何のことですかなあ？　ワシは聖職者の性犯罪について講義をしただけですがのお」

分かったらさつさと講義料を払わんかい、このカスが。

それにしても、担任の秘密を握れるとは、今日は本当についているのう。

証拠写真があるとか言って目の前に携帯かざしたら一発で信じおつたわい。

そんな事したら、シャッター音でバレるじゃろうが。

まあ、音を出さない様にする方法もあるにはあるが、この馬鹿がそんな事を知つてるとも思えんしのう。

どうしてこいつはこんなにアホなんじゃろうか。

今までまっとうに生きてこれた事自体が不思議じゃわい。

さて、このカスから一体幾ら搾り取ってやるうかのう。

せめて20万は欲しい所じゃが、どうせ何度も脅…講義してやる予定なんじゃ。

欲張りすぎは良くないかのう……ヒヤッヒヤッヒヤ！！ 笑いが止まらんわい！！

さて、次の講義のタイトルは援交の相場にでもするかろう。

ん、さつきからあのエロゴリラは顔真っ赤にして何を呟いとるんじや。

「こうなったらお前を殺して…証拠を……」

こ…このアホ、追い詰められて暴走しおった。

顔もゴリラじゃが体格もゴリラ並じゃから、力では太刀打ち出来ん。まさか、後先考えるだけの頭もないとは思わんかったわい。

「寄るなボケカス！！ 俺を殺すと全世界に証拠画像が…」

「問答無用！！」

駄目じゃ、話が通じん。

これだから低脳は嫌なんじゃ。

何をニヤニヤしとるんじゃ、それでワシを追い詰めたつもりか？

脳みそまでゴリラ並みなんじゃなかるうか。

ええと、確かここに入れといった筈じゃが… あったわい。

「喰らえや！！」

「ギヤアアアアアアア！！！！」

ウヒョー！！！！ 流石ワシ特製の改造スタンロッド、良く効く
のう。

陸に打ち上げられた魚みたいに痙攣しとるわ。

まあ、元は50万ボルトの牛用スタンガンじゃからな。

人間なんぞ、腕に軽く当てただけでこうなるのは当然じゃ。

それにしても、ワシが何の対処もせずここに来たと思つとるとは
のう。

アホめが、護身用の武器なんて幾らでも持つとるわい。

天才たる者、愚民の考える事くらいお見通しじゃ。

ほれ、力の差が分かったらさつさと有り金渡さんかい。

何じゃ？ 床に寝転がったままピクリとも動かんようになりおつた。
……………これ死んどらんじゃろうな？

「借りた錢返すんは人として当然の事じゃろうが。

何？ 錢がないじゃと？ 無いから返さんじゃ済まんわい！盗ん
ででも都合せえや！！」

まったく、世の中腐った人間が多すぎるわい。

何で親切にも金を貸してやったワシが、一々電話で催促なんかせに
やなんのじゃ。

向こうから連絡入れるのが筋っちゅうもんじゃろうが。

借りる時だけ頭を下げおつて、利息はたったの十三程度じゃ。

さつさと返さんから、たった5万の借金が100万以上に膨れあが
るんじゃ。

どうやったらそこまで増やせるのかワシが知りたいくらいじゃわい。
まあ、そんな奴だから借金なんぞするんじゃろうがのう。

「ええか？ 期日までにせめて利息分くらいはしっかり払うんじやぞ。

払わんかったら職場にまで取り立てに行くから覚悟せいや！ じやあの」

まだ何かほざいとつたが無視じゃ無視。

腐れ脳味噌の文句に一々付き合つてられんわい。

あのダボカスから元金回収する方法を考えんといかんしのう。

それにしても、本当にアホ相手の商売は大変じゃわい。

どうやったら、あそこまで落ちぶれる事が出来るのじやろうか。

猿でも反省くらいするっていうのに、あいつらは全く成長せんわい。

それで金が儲つてゐるわけじゃし、文句はないんじやがのう。

まあ、深く考えてもしょうがないわい。

どうせ愚民の考えなんぞ理解出来るはずも無いんじや。

気分を入れ替える為に今日の儲けでも数えるとするかのう。

自宅のソファ―に座り紙幣の数を数えるこの至福の一時、堪らんわい。

この一瞬の為に一日頑張つてゐるような物じゃからのう。

で、これが脳筋ゴリラからの回収分じゃ。

本当に、あの援交教師にはビックリさせられたわい。

後で、その分も請求せんとこのう。

つい、財布だけ抜いて逃げ出してしまったわ。

まあ、息はしとったから死んではおらんじやろう。

本当にどいつもこいつも、まるでアホの展覧会じゃ。

ん…クレジットカードか、ゴリラの癖にカードなんぞ使いおつて。

現金化に困るじやろうが…まあ2万くらいで売れるから良いけどのう。

全部で5万ちよいといった所か、時化た金額じゃが自宅の場所が分かっただけ良いとするわい。

まあ、どうせ生きてればどうせ学校で顔を合わすじやろうし、逃げ

た時の為の保険程度じゃ。

さて、何といつても商売は体が資本じゃ、明日に備えて寝るとするか。

その前にこの金を金庫に仕舞つてと、これで今日の仕事は完了じゃ。世の中には平気な顔して人様の金を盗む奴がおるからの、くわばらくわばら。

また明日も今日みたいに素晴らしい日が来ると良いのう。

まあ、明日は儲けの当てがあるから安心して眠れるわい。

第1話・ああ最低じゃわい、だから何じゃ？（後書き）

4 / 17 第1話投稿

第2話：ガキ相手でも容赦はせんわい！！

そうしてワシはその日眠りについたわけじゃ。

その筈なんじゃがのう…。

何なんじゃこの真っ白な空間は。

んでもって、何なんじゃこの生意気そうなガキンチョは。

「山寺和仁さんですね。私は神様代行No.42009号です。」

ああ、キチガイか、可哀相に。

この歳でそこまでバカじゃと、きつとロクな人生は送れんじやろうのう。

まあ、こいつがどんな人生を送ろうとワシには関係ないがな。

一円も出す気はないが、同情くらいはしてやろう。

「それでガキンチョ、ここは何処なんじゃ？」

それが一番大事な話じゃ。

まず、考えられるのは誘拐されたという線かのう。

世の中どいつもこいつも金の事しか考えて無い金の亡者じゃからの。世知辛い世の中になったもんじゃわい。

しかし、金が欲しいならワシより金持ちのガキでも誘拐した方が合理的じゃからな。

そもそも、ワシの全財産は金庫に入っとる筈じゃ。

気付かれず家に進入出来るならそこで盗めばいい話、ワシを誘拐するメリットがないわい。

怨恨の線か？　だが、それは考えられんのう。

ワシの商売は常に清廉潔白、誰かに恨まれるような覚えは更々ないわい。

さつきから何かガキンチョが喚いとるのう。
五月蠅くて仕方が無いわい。

「自分から聞いというて無視しないでください！　ここは死者の選別を行う神の間です。

貴方は昨日の午後10時27分54秒に心臓発作で亡くなりました」

ああ、余りにもアホな事を言つとるから脳が拒絶しとったんじゃな。これだからガキは嫌いじゃ、アホガキのゴツコ遊びに付き合ってる暇はないわい。

明日のビッグビジネスがワシを待つとるんじゃ。

「そこまでいうなら証拠を見せてみんかい」

何を驚いた顔してるんじゃ、このガキンチョは。

ガキ相手だからって誰でも優しくして貰えると思つとったら大間違いじゃ。

世の中そんなに甘く無いわい。

「この場所を見れば皆さん納得してもらえますんですが、まあいいでしょう」

何やらガキンチョの体が青白く光出しとるわい。

だが、こんなもんCGやホログラムで説明が付くんじゃ。
最悪、夢かもしれない可能性は捨てられんからのう。

「甘い甘い、その程度じゃ大人をなっギエアアアアアア！……！」

な…何が起こったんじゃ。

ガキが光ったと思ったら、次の瞬間には激痛が襲ってきおったわい。

「雷を出す魔法です。これで信じて貰えますか？」

魔法じゃと？ た…確かにこの痛みは現実じゃ。

現代科学で再現出来んわけじゃないが、それも考え難いのう。

ワシを騙すだけにそこまで大掛かりな仕掛けを用意する必要性は全くないわい。

これはひよつとすると、ひよつとするかもしれんぞ。

「…ってちよつと待たんかい!!」

「今度は何ですか？」

「何を呆れた様な顔をしとるんじゃ！ よくもワシに電流浴びせてくれおったな!!」

つい流される所じゃったわい。

そんなツマラン事で人に雷を浴びせるとは、何てガキじゃ。

百万歩譲ってあのガキが神様代行とやらだとしても、所詮はガキはガキじゃわい。

人様に暴力を振るうなんて最低の行いじゃ、人間の屑じゃ。

「貴方が証拠を示せと…」

「じゃあ何か!? おのれは身分証明を求めらる度、毎回相手に電流浴びせるつちゆうんか!？」

「いや、それは…」

まだ言い訳しよるんか、このガキヤあ。
ワシにここまでやらかしよって、タダでは済まさんわい。

「それは何じゃい！！ 雷落とさにゃならん理由を説明出来るちゅうんか。おお！？コラ！！！！」

「いえ… スイマセン」

「分ければ良いんじゃ、分ければのう」

やっと己の非を認めおったか。

さあ、こっからはビジネスの時間じゃ。

ガキ相手とはいえ、容赦はせんからのう。

いや、ちよつと待てよ。

確か、このガキヤあ神様代行とか何とかふざけた事ぬかしとったのう。

例え神様代行とやらじゃなくとも、不思議な力を持つとる事には違いないわい。

大掛かりな仕掛けを用意し取った可能性も0ではないが、
見方を変えればこいつにはそれだけの財力があるっちゅうわけじゃ。
ウヒョー！！！！鴨がネギを背負って来たとはこの事じゃ。

こんなチャンスは滅多に無いわい。

絞り取れるだけ搾り取ったらんかい。

「で、この慰謝料は幾らほど払って貰えるんかのう？」

「え？ さつき分ければいいって」

何を言つとるんじゃ？ このアホガキは。
ゴメンで済んだら警察は要らんわい。

金、金、金、世の中金じゃわい。

「屁理屈ぬかすな！！　わりやあワシに雷落とした事忘れてるんちやうやるのう？」

「それは申し訳ないと…」

「だったら慰謝料払わんかい。魔法でパパッと出しゃあええじゃろがい！」

雷落とす力があるなら100万や200万くらい軽く出せるじゃろうが！！」

そうじゃ、それ位やれば信じてやってもええわい。何じゃ、またガキが青白く光り出しとるのう。

という事は、魔法とやらを使ったという事か？ど…どこに金があるんじゃ。何も出て来とらんぞん？何かがバサバサと落ちて来とるわい。

こ…これは、金じゃ、札束が降って来とる。

「これで良いんですか？」

「わ…ワシの金じゃ！　一円たりとも渡さんぞ！！」

「…いりませんよ」

ヒャッハー！　笑いが止まらんのう。

一億はあるんじゃなかるうか。

あの程度でこれだけ貰えるなら、後100回くらい喰らってもええわい。

「これで話を聞いて貰えますか？」

チツ、折角の良い気分にあ水を差しおつて。

だが、このガキが只者じゃないと分かった以上、煽てといった方が得策じゃのう。

力が有るというてもガキはガキ、いざとなったら幾らでも丸め込めるわい。

「何なりとお申し付けください、お坊ちゃま」

「お…お坊ちゃま？ まあ、良いです。普通、死後人の魂がどうなるかは二つに一つです」

「天国と地獄ですかいのう？」

相変わらず意味の分からん事をぬかしよるわい。
まあ、適当に相槌を打っておいたらええじゃろ。

「いえ、そういった信仰の先にある聖地にたどり着くか、現代に執着して自縛霊になるかの二つです」

「ほう、それはそれは。流石お坊ちゃま、博識でいらっしゃる」

「普通なら我々もただか自縛霊くらいで一々動いたりもしないのです。

しかし、今回の霊は現世に対して余りにも強力な執着力を持っているようで、

自縛霊となつた時の影響力は計り知れなく、止むを得ず我々が解決する事になりました」

「それはまた、往生際の悪い奴もいるもんですのう」

何処にでもいるもんじゃのう、そういう見苦しい奴が。
進むときに進み引くときに引く、男は決断力が一番じゃ。

「貴方です」

「は？」

「ですから、貴方がその自縛霊なんです。私の力ではどうこうするのは不可能でした。

お願いですから成仏して貰えませんか？」

なっ…ワシが自縛霊じゃと？

そっういや、心臓発作でどうかこうとか言っとなような気がするわい。

だとすると、ワシのエリート人生（予定）はどうなるんじゃ。

死んだらこの札束の山だって何の役に立たんじやろうが。

真面目一筋に生きてきたワシが何でこんな目に遭わんといかんのじや。

「嫌じゃボケ！ 絶対に成仏なんかせんからのう！！」

神様だと言うならさっさとワシを蘇らせんかい！！！！」

「死人を蘇らせる事なんて出来ませんよ。それに神様じゃなくて神様代行です。

良いですか？ 貴方が成仏しないと大勢の人間が不幸になるんですよ？」

「誰が不幸になろうとワシの知ったことか！！」

そうじゃ、ワシ以外の人間はワシが幸せになる為だけに生きとるんじゃない。

ガキンチョが真っ赤な顔して何か喚いとるが知った事か。

ワシが不幸になるならワシ以外の人間も皆不幸になつてしまえばいいんじゃない。

それが嫌じゃつたらワシが不幸にならずに済む方法を考えんかい。
向こうにはこちらを成仏させる方法がないわけじゃからな、何時間でも粘つたるわい。

第2話・ガキ相手でも容赦はせんわい!! (後書き)

4 / 17 第二話投稿

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5303s/>

嗚呼、素晴らしき我が守銭奴人生

2011年10月7日10時43分発行